

市民意見提出(パブリックコメント)のお願い

市は一般廃棄物基本計画(平成 29 年度から平成 38 年度までの 10 年間を計画期間とする「芦屋市一般廃棄物処理基本計画(ごみ処理基本計画)」を作成し、市民からの意見を本日から募集しています。

皆さん方の意見を直接、市に伝える絶好のチャンスです。ぜひ、ご意見を書いて提出してください。

○ 対象となるもの

芦屋市一般廃棄物処理基本計画(ごみ処理基本計画)(原案)

芦屋市一般廃棄物処理基本計画(ごみ処理基本計画)
(原案)

芦屋市の HP にありますので、下記の URL を入力してください。ページ数が多いですが、興味にあるところを読んでご意見をお願いします。そのなお、私たちの HP からもリンクをします。

<http://www.city.ashiya.lg.jp/kankyouushori/pabukome/pabukomebosyuu.html>

○ スケジュール

- ・募集期間平成 28 年 12 月 26 日(月)から平成 29 年 1 月 25 日(水)まで
- ・周知方法 12 月 15 日号広報あしや、市ホームページ、広報掲示板、
- ・閲覧場所市ホームページ、環境処理センター(環境施設課)、市役所(北館 1 階行政情報センター)、ラポルテ市民サービスセンター、市民センター(公民館図書室)、図書館本館、保健福祉センター、市民活動センター(リードあしや)、潮芦屋交流センター

○ 提出方法

- ・ 環境処理センター(環境施設課)に持参、郵送、ファックス、ホームページ上の意見募集専用フォーム、E メール
 - 住所 : 〒659-0032 浜風町 31 番 1 号
 - 電話番号 : 0797-32-5391
 - ファックス番号 : 0797-22-1599
 - E メール : info@city.ashiya.lg.jp
- ・ または芦屋浜自治連合会

ぜひ皆さんのご意見をお願いします。ご参考までに次ページに山口の意見書を添付しています。

芦屋市一般廃棄物処理基本計画(ごみ処理基本計画)(原案)への市民意見(見本)

1. 良くないデータは市民の意識を変えるチャンス

前計画の中間目標達成状況をみると(P35)、いずれも未達成となっている。しかも、原案では全国との削減率での比較をしているが(P37)、それは基準点が平成12年で、ごみが減ったように見せているにすぎない。絶対値のグラム数では、兵庫県のデータ(兵庫県の一般廃棄物処理 平成25年度)においては、芦屋市は市町別ごみ排出量は年々順位を下げて平成25年度で生活系ごみ量は41番中41番となっている。原案が示しているようにごみ削減率が高いのであれば、順位は上がってもいいのだが、むしろ下がっている。しかも、全国の平均値よりも152gも多い(環境白書平成28年度版)。このことから、ごみ量は他市と比較すると、芦屋市は多いと考えるのが妥当な判断だと考えられる。都合の良いデータをだけを載せるのではなく、都合が悪いデータもあわせて載せることが、市民に現実を知らせ、ごみ問題にたいする意識変革のチャンスとなるのではないだろうか。正直なデータは市民の的確な判断と市との信頼関係をつくることを肝に銘じてもらいたい。

2. 数値がない方策、費用が示されない方策は方策とは言わない

原案では、具体的な方策で、新方策3個、拡充方策8個、継続方策16個と盛りだくさんある。数は多いが、具体的な数値目標が記入されていない。どの方策も「頑張ります」が多く、例えば、「マイ食器、マイボトルの利用」とあるが、市民、事業者、市でどの程度普及させるかの数字がまったくない。他の方策も同様。これは方策ではなく、単なる「なったらしいよね」という願望にすぎない。

具体的な方策では、それを実現するための費用が当然必要となる。しかしながら、この数字がまったくどこを見ても書いていない。効果(成果)とそれにもなう費用はしっかり比較して、その方策が実現されたかの評価をおこなわなければならない。しかし、効果も具体的な数字で表示されていないし、それに関わる費用もわからない。これでは、目標達成年度になっても的確な評価はできない。今から無責任の温床を自ら作っている。

3. 目標を達成したら何が変わらのか

原案では目標値(P58~)がそれぞれ書いてあるが、それを達成したら、どのくらいの金額が削減されるのでしょうか、また、この目標でごみの量が全国平均値よりも下がるのでしょうか、更に兵庫県での順位が上がるのでしょうか。目標を達成できたら何が、どうなるのかが見えないものは目標とはいはず、単なる数字に過ぎない。これらを考慮すると、原案で示された目標数字は無責任で単なる作文である。

4. 広域化はビジョンが必要

西宮市との広域化で200億程度の費用削減が見込まれるとの話があるが、その削減した費用をどのように使うのかを事前に示さないと、本当の生きた金の使い方にはならない。むしろ、無駄使いの温床となる。広域化の明確なるビジョンと浮いた費用を何に使うかを事前に検討し、市民に提示してもらいたい。

5. 具体的な提案—芦屋環境省の創設

市民の協力でごみ減量を図ることは大切であるが、一方、ごみを生みだしている企業の責任もある。企業がごみを減量することは多額の費用が掛かることは理解しているが、これからの時代はそのような企業姿勢は許されない。芦屋市も対策の中で「事業者に環境に配慮した……」と書いてはいるが、これも何時、何社にその要求をするのか具体的な数値目標がない。私の提案は、芦屋市の100年の計として「地球環境に貢献する街」づくりを目指し、財源は広域化で浮いた費用で基金をつくり、「芦屋環境賞」を創設する。具体的には、環境保全に取り組む日本企業及び団体を対象とし、ごみ減量化に貢献した企業・団体をサポートしていくことを旨とし、率先して「リサイクルの促進、過剰包装の防止、ごみ減量化に貢献した企業・団体」の表彰と賞金贈呈をおこなう。

以上

芦屋市若葉町2-1-531 ゴミ収集パイプライン利用者の会 山口能成

TEL:0797-22-6932

— この用紙をそのままお送りください —

名称(あてはまる番号に○をつけてください)

1 行政改革基本計画【政策推進課】	5 第3次地域福祉計画【地域福祉課】
2 公共施設等総合管理計画【政策推進課】	6 強靭化計画【防災安全課】
3 第2次文化振興基本計画【政策推進課】	7 都市計画マスターplan【都市計画課】
4 一般廃棄物処理基本計画(ごみ処理基本計画)【環境施設課】	

ご意見

住所

氏名(団体等は名称・代表者氏名)

電話番号(FAX)

※1枚で書ききれない場合は、どのような用紙をお使いいただいても結構です。

(送付先)

郵送(〒659-8501 住所不要)

mail info@city.ashiya.lg.ip

FAX

123 政策推進課(31-4841)

5 地域福祉課(38-2060)

4 環境施設課(22-1599)

6 防災安全課(38-2157)

7 都市計画課(38-2164)

※ アンケートに御協力お願ひいたします。

パブリックコメントをどのようにして知りましたか。(あてはまる番号に○をつけてください)

1 広報芦屋 2 ホームページ 3 広報掲示板 4 公共施設 5 その他()